

新しい健康講座を始めました

当院では、人間ドック受診者を対象に健康情報の発信を目的として健康講座を実施しております。今年度より新しく「減塩」についての健康講座を開始しました。この度5年ぶりに「食事摂取基準」が改訂され、食塩相当量の目標量が更に厳しく変更されました。この機会に是非健康講座に参加していただき減塩生活をスタートさせましょう。新型コロナウイルス感染症対策を万全におこなった上で運営しておりますので、安心してご参加ください。

with/after コロナへの挑戦

近頃メディアでもよく耳にする「with コロナ」、「after コロナ」という言葉。一度緊急事態宣言が解除されても、新しい生活様式を取り入れ新型コロナウイルスと共存「with コロナ」していかななくてはならない状況となりました。また、治療薬やワクチンが量産された後のコロナ後の世界「after コロナ」では、特定の意識・価値観や行動様式は変化したまま元には戻らないだろうと言われています。当院では、with/after コロナにおいて安心して健診をご受診していただけるよう、新たな取り組みに挑戦しております。

【3密(密閉、密集、密接)を避ける対策】

①密閉への対策

- ・健診フロアは1時間に約2回の換気を行っております。
- ・各部屋の扉を開放しております。
- ・各検査室内にはサーキュレーターを必要に応じて配置し、空気の滞留がないよう配慮しております。



②密集への対策

- ・当院の健診フロア面積は、およそ1,200㎡です。ソーシャルディスタンスを保つためには、1人当たり4㎡必要とされております。ピーク時の受診者数は約120名及び健診スタッフ約80名を含め、200名当たりの必要面積である800㎡を十分確保しております。検査の流れによっては、部分的に密集が発生する場合がございます。その際には、人数等を制限しております。

③密接への対策

- ・受付、検査等で対面する場所には、アクリル板を設置して飛沫感染防止対策を行っております。
- ・各種検査機器及びドアノブ等のアルコール消毒を実施しております。
- ・新型コロナウイルス感染者との濃厚接触を判断する目安は「1m以内かつ15分以上の接触」となっておりますので、「密接」を避けるため、各検査は10分以内に終了するよう配慮しております。
- ・職員の健康管理には細心の注意を払うとともに、手洗い・うがい・手指消毒を徹底しております。

【院内待機時間の短縮】

- ・オンライン診療の導入。
- ・人間ドック受診当日の受付順の変更（先着順から予約制へ変更）
- ・人間ドック結果説明のオンライン化の導入。
- ・外来診療完全予約制へ移行（11月頃より変更予定）
- ・オンライン人間ドックの開発（オンラインによる問診・会計・結果説明など）



新たな取り組みにより更なる健診の品質アップを目指し、「信頼と満足を得る医療サービスを提供し続ける大宮シティクリニック」でありたいと思います。

総務企画部

胸部CT検査でわかること

皆さんは胸部CT検査（以下、CT）と聞くと、おそらく多くの方々は“肺癌の検査”と思われるのではないのでしょうか。もちろん、CTはレントゲンではわからないような早期の肺癌を見つけることができますが、他にもいろいろな病気を見つけることができます。



・肺癌以外の結節

CTでは肺癌以外の結節が見つかることがあります。炎症の跡などの良性のものから、将来癌になってしまう可能性を否定できないものまで様々な結節があります。将来癌化を否定できない場合は数か月おきにCTでフォローし、万が一大きくなる傾向があれば専門医を受診していただくことになります。

・喫煙による変化

肺気腫は長年の喫煙によって肺が破壊されてしまう病気で、末期には呼吸が困難になります。CTではレントゲンではわからないような初期の肺気腫も発見することができ、禁煙治療のきっかけになることが期待できます。

・感染症

CTで偶然にみつける感染症で比較的頻度の高いものとして非結核性抗酸菌症があります。原因菌は居住環境に常在する弱毒菌でヒトに吸い込まれると肺に結核に似た形の病変を作りますが、ほとんどは無症状でヒトからヒトへはうつることはありません。ただし、進行すると咳や痰が持続し難治性となりますが、抗菌薬等の投与により悪化を予防することができます。

・動脈硬化

動脈硬化の進んだ動脈には石灰化が多く沈着します。CTでは石灰化は白くはっきりと認められますので、動脈硬化の強さを類推することができます。

・その他の病変

上腹部や乳房は胸部の近くにあるため、ごく稀ではありますが胃癌や乳癌が写っていることがあります。もちろん、胃癌は内視鏡やバリウム検査、乳癌はマンモグラフィや超音波で検査するべきものですが、我々診断医がCTを読影するときは肺以外の部分にも十分注意を払うようにしています。

・被ばくについて

放射線被ばくについてご心配される方も多いかと思えます。CTなどの診療用放射線は安全に使用されるために診療の正当化、防護の最適化が厳格に管理されています。また、最近のCTの被ばく量は昔に比べて飛躍的に低下しており、安心して検査を受けていただくことができます。

いかがでしたでしょうか。CTでは肺がん以外にも多くの病気の発見が期待できます。今度、人間ドックを受け際にはオプションのCTをご検討されてみてはいかがでしょうか。

画像診断統括部長 放射線科医 君塚 孝雄

健康相談室だよりは当クリニックホームページにも掲載しております。バックナンバーもご覧いただけます。

ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください

ホームページ URL : <http://www.omiyacityclinic.com/article-letters/>

ご意見・ご感想 : sodan@omiyacityclinic.com

